

## 無題

桜の葉が落ちている  
どす紅く乾いた血のような色となって  
桜の葉が散り落ちている

昨日も今日も明日もなければいい  
人間たちと僕自身に強迫され続けるなら  
時間など不要だ

生きる、などということは  
厚顔無恥な君たちにお任せしたい  
僕に生の意味を教えてくれなかった君たちに

桜の葉がまた落ちる  
枝から棄てられてゆく  
この枯葉の山の中でいつまでも暮らしたい

僕らにしか見えないものがある  
君たちが嘲笑する僕たちにしか見えないもの  
君たちが目をそむけて忌み嫌うものが

それらを押し付け  
自壊とともに消えてゆくことを願う  
君たちは、そういう者たちだ

汚らわしい裏切りに満ちた生  
社会という名の裏に隠された排除の論理  
欲望を満たすための秩序の論理

君たちは感じないのか  
僕たちが未来を予見し、体現していることを  
ああ、鎧を身に着けた君たちには

思い返してみるがいい  
宝石のように静かに光る小さな家を  
何気なく通り合う街と社会を

次なる犠牲は君たち自身であることを知れ

人間を食い漁り、肥大化してゆく社会  
もはや制御不能の社会という名の独裁者の犠牲に

我々は再び始めようとしている  
借金を帳消しにするための野望を  
今度の大義名分はいかなるものとなるだろう

それは次第次第に降り積ってゆく  
その自重によって変異してゆく  
粒子同士のせめぎ合い

爆発して塵となるか  
重力を道連れにしながら沈み続けるか  
死が生となり、同時に死が継続する

僕たちは退化を選んだ者である  
君たちが望んでいる未来を拒絶する者である  
誰かが止めなければならない

桜は眠りの中へとももる  
もう目覚めてはならない  
時間など不要だ

(2005.12.3)